

# 文化財展示室へ 行ってみよう♪



はじめに

那珂川市中央公民館2階にある文化財展示室では、市の歴史を大きく5つの時代ごとに、それぞれの時代を代表する文化財を展示しています。

本冊子では、各時代の歴史的背景を紹介するとともに、展示されている貴重な出土品の中からさらに厳選したものを、時代ごとの「みどころ文化財」として紹介しています。那珂川市内の遺跡から出土した多種多様な遺物を、図録として手元でゆっくり眺めるのもよし。そして、この冊子で予習してから展示室を訪れ、実物を見るのもよし。あなたなりの楽しみ方で、那珂川市の歴史に触れてみてください。

# ～各時代の流れをつかみましょう～

## 旧石器



今から約3万年前～約1万5000年前の旧石器時代、今よりも寒い時代(氷河期)で人々は石で作った狩りの道具を手に、獲物を追い求めて移動しながら生活していたと考えられています。

## 縄文



今から約1万5000年前、氷河期が終わって気候が温暖になりました。狩りをするための弓矢や煮炊きをする土器を発明し、地面を掘りくぼめ、その上に草などで小屋掛けした竪穴建物をつくって定住するようになりました。

## 弥生



国史跡安徳台遺跡

今から約3000年前、大陸から米づくりをはじめとする新たな生活様式が伝えられました。水や土地を基盤とする地域経営はクニの成立を促しました。那珂川市を含めた福岡平野では「奴国」という強力なクニが生まれました。安徳台遺跡は奴国を構成する有力集落の一つで、ここを治めた王の墓が発見されています。

## 古墳



丸ノ口古墳公園(円墳)

今から約1800年前、近畿地方で土を盛った巨大なお墓(古墳)が出現しました。古墳の形や大きさ、墓に納められた副葬品などを比較することで、被葬者の社会的地位を知ることができます。市内には、8基の前方後円墳と1基の前方後方墳があり、小さな古墳を合わせると500基近くあります。

## 古代



裂田溝

奈良時代にはいと、天皇を中心とした国づくりが進められ、刑罰や法律により、役所やお金などの仕組みが整えられていきました。大宰府には漢字や仏教など大陸から新しい文物がもたらされ、「西の都」が花開きました。那珂川流域の豊かな実りは、たくさんの人々の暮らしを支えました。

## 中世



少式景資(土佐長隆ほか『蒙古襲来合戦絵巻』(1)写国立国会図書館デジタルコレクションを改変)

平氏を滅ぼした源氏が政権を握った鎌倉時代、日本に蒙古襲来の危機が訪れ、武士たちは山城をつくって居城しました。今に残る山城や街道、発掘調査で見つかった鍛冶場や陶磁器などから、人々の生活や貿易による交流の様子をうかがうことができます。

## 近世 近現代



岩戸神楽

戦乱の世が終わり平和になった江戸時代には、さまざまな文化や芸術が登場しました。中には、今まで大切に受け継がれてきたものもあります。みなさんの身近には、どんな歴史や文化が残っているでしょうか。明治以降の発展の中で、本市がたどってきた歴史を見つめてみましょう。

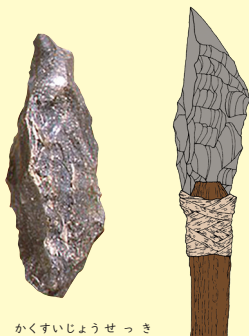
# ～各時代のみどころ文化財(展示の一部)を見てみましょう～

## きゅうせつき じょうもん 旧石器時代～縄文時代



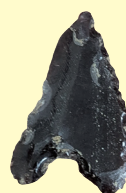
この展示ケースには、旧石器時代に作られた石器や、縄文時代の石器や土器を展示しています。

## 石を使った武器！！



かくすいじょうせつき  
▲角錐状石器

(井河遺跡群：旧石器時代) 長さ 4.5 cm



せきぞく  
▲石鏃

(山田西遺跡群：縄文時代) 長さ 2.5 cm

## 注目

やり  
槍や矢の先に付けて使われて  
いました。さわ  
すると、鋭く加工  
されているのがわかります。



## なぜの石器！！



じゅうじがたせつき  
▲十字形石器

(山田西遺跡群：縄文時代) 長さ 12 cm

## みが磨きかけた土器！！



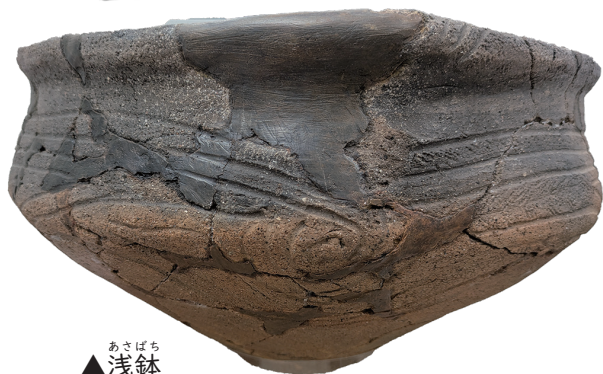
こくしよくまけん  
▲黒色磨研土器

(松木遺跡群：縄文時代晩期) 幅 25 cm

## 注目

こうたく  
光沢が出るように表面に  
ススを付け、ていねいに  
みが磨き、黒色に仕上げています。

## もよう模様 がきれいな土器！！



あさばち  
▲浅鉢

(山田西遺跡群：縄文時代後期) 高さ 19 cm



ふかばち  
▲深鉢の一部

(山田西遺跡群：縄文時代後期)

幅 12 cm

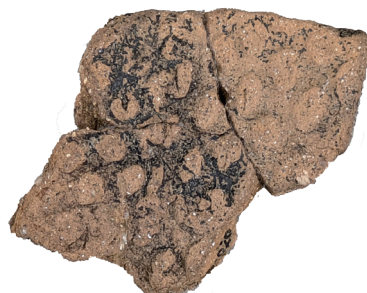


あさばち  
▲浅鉢

(山田西遺跡群：縄文時代後期) 高さ 13.5 cm

## 注目

縄文土器は、縄紐だけではなく、木の  
工具や貝を使って様々な文様を、  
描いています。



おしがたもん  
▲押型文土器

(倉谷遺跡群：縄文時代早期)

幅 6.5 cm

## やよい 弥生時代



この展示ケースには、弥生時代の石器や土器、お墓に納められた副葬品を展示しています。

## 石を使った道具！！



いしぼうちよう あんどくだい  
▲石包丁（安徳台遺跡） 幅 13 cm

### 注目

稲の穂をつむための石器で、2つの穴にヒモを通して使います。



## 様々な形の土器！！



たかつき  
▲高坏  
いまみつ おねいし  
（今光・宗石遺跡群：弥生時代後期） 高さ 24 cm



ふた かめ まつのき  
▲蓋と甕（松木遺跡群：弥生時代前期）  
蓋：高さ 12 cm、甕：高さ 26.5 cm

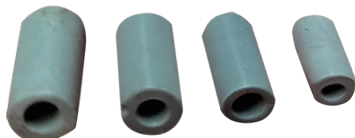


つぼ  
▲壺  
（松木遺跡群：弥生時代中期）  
高さ 19 cm

## はか お墓の中から発見！！

### 注目

へきぎよく  
碧玉という宝石でつくられた細長い玉で、幅 0.7 cmの玉に穴をあけています。



くだたま かんのだう  
▲管玉（観音堂遺跡群） 長さ 1 cm



かいわ  
▲貝輪（観音堂遺跡群） 長さ 6.5 cm

### 注目

南海産のアツソデ貝を加工したブレスレットで、貝のうずまきを残しています。子どものお墓から見つかりました。



せっけん  
▲石剣（観音堂遺跡群）  
長さ 8 cm

## こふん 古墳時代



この展示ケースには、古墳に納められた副葬品をはじめとして、当時お祭りで使われていた土器なども展示しています。

えんとうはにわ  
埴輪といえば円筒埴輪!?

### 注目

埴輪には、人や家、動物、武器などの形をした「形象埴輪」と呼ばれるものと、右の埴輪のように、筒の形をした「円筒埴輪」があります。円筒埴輪は、古墳の周りにたくさん並べられ、最も長い期間、最も多く作られました。



▲円筒埴輪

(貝徳寺古墳：古墳時代中期) 高さ 34 cm

## すえき 須恵器の登場!!

須恵器とは、朝鮮半島から伝えられた、窯を使って高温で焼く硬い土器のことです。

### 注目

穴の部分に竹などの注ぎ口を差し込み、お酒などを入れて使っていました。



▲甕

(井河Ⅰ号墳：古墳時代中期)  
高さ 11 cm



▲坏身・坏蓋

(井河Ⅰ号墳：古墳時代後期)  
蓋：直径 12.5 cm



▲皮袋形提瓶

(観音山古墳群：古墳時代後期)  
高さ 16 cm

### 注目

皮袋の縫い目まで表現しています。



▲高坏

(井河Ⅰ号墳：古墳時代中期)  
高さ 13 cm

## ふくそうひん 副葬品の数々!!



▲三角縁神獣鏡

(妙法寺2号墳) 直径 21.9 cm



▲耳環

(観音山古墳群) 直径 3 cm



▲鈴釧

(井河古墳群) 直径 8.5 cm

### 注目

5 個の鈴が付いた青銅製のブレスレットで、今でも鈴の音が鳴ります。



▲ガラス製小玉・勾玉

(井河古墳群) 直径 16 cm



▲勾玉

(野口遺跡群) 長さ 4.5 cm

## 古代～中世



この展示ケースには、奈良時代の土器や鎌倉時代の皿・磁器・弾丸などを展示しています。

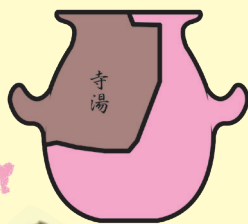
## 蔵骨器か!?



▲短頸壺

(別所次郎丸遺跡群：奈良時代) 高さ13 cm

## 寺院の痕跡!?



▲墨書土器/甕の一部  
(別所次郎丸遺跡群：奈良時代)

高さ14.5 cm

塔左

## 注目

墨書土器とは、皿の裏や甕の側面に文字が書かれている土器のことを言います。文字が書かれた土器は役所や寺院などから出土することが多いです。



▲墨書土器/皿

(別所次郎丸遺跡群：奈良時代)

直径21 cm

## 磁器の美しさに魅了!!

北部九州では中国大陆に近いことから、地の利を活かした大陸との交易が活発に行われ、高価な品々が盛んに輸入されていました。

## 注目

全体にうぐいす色の釉薬をかけた磁器です。へら描きの花文や蓮華文などが施されています。



▲龍泉窯系青磁

(カクチガ浦遺跡群：鎌倉時代) 高さ7.5 cm

## 注目

きめ細やかな素地に、白色系の釉薬をかけた磁器です。シンプルで端正な器形が特徴です。



▲白磁

(今光・宗石遺跡群：鎌倉時代) 高さ7 cm

きんせい きんげんだい  
近世～近現代



この展示ケースには、江戸時代～昭和初期に使われていた道具だけではなく、「市制施行」グッズも展示しています。

とっくり  
この徳利に **お酒** ください!!

注目

この徳利は「<sup>びんぼうとっくり</sup>貧乏徳利」(通い徳利)と言って、酒屋さんが貸し出す徳利です。昔は、<sup>はか</sup>お酒の量り売りをしており、空になった徳利を持っていき、酒をいれてもらっていました。<sup>あんどく かじわら</sup>安徳村梶原にあった酒屋で使われていたものと考えられます。



▲徳利 高さ 26 cm

かぐら  
江戸時代から **神楽** とともに受け継がれてきたお面!!

注目

この面は、福岡県の無形民俗文化財に指定されている「<sup>いわと</sup>岩戸神楽」で、昭和 58 年頃まで使用されていたものです。面のほとんどが江戸時代につくられており、工芸品としても神楽の研究資料としても貴重な面です。全部で 10 面あり、市指定文化財になっています。



▲赤鬼の面  
(明治時代) 高さ 25 cm



▲翁・<sup>あまのこやねのみこと</sup>天兒屋根命の面  
(江戸時代中期) 高さ 21 cm

村から町、そして **市** へ...!!

注目

昭和 31 年に<sup>みなみはた</sup>南畑村・<sup>いわと</sup>岩戸村・<sup>あんどく</sup>安徳村が合併して「<sup>たんじょう</sup>那珂川町」が誕生しました。その 62 年後の平成 30 年 10 月に「那珂川市」になりました。



▲Tシャツ  
(市制施行グッズ)



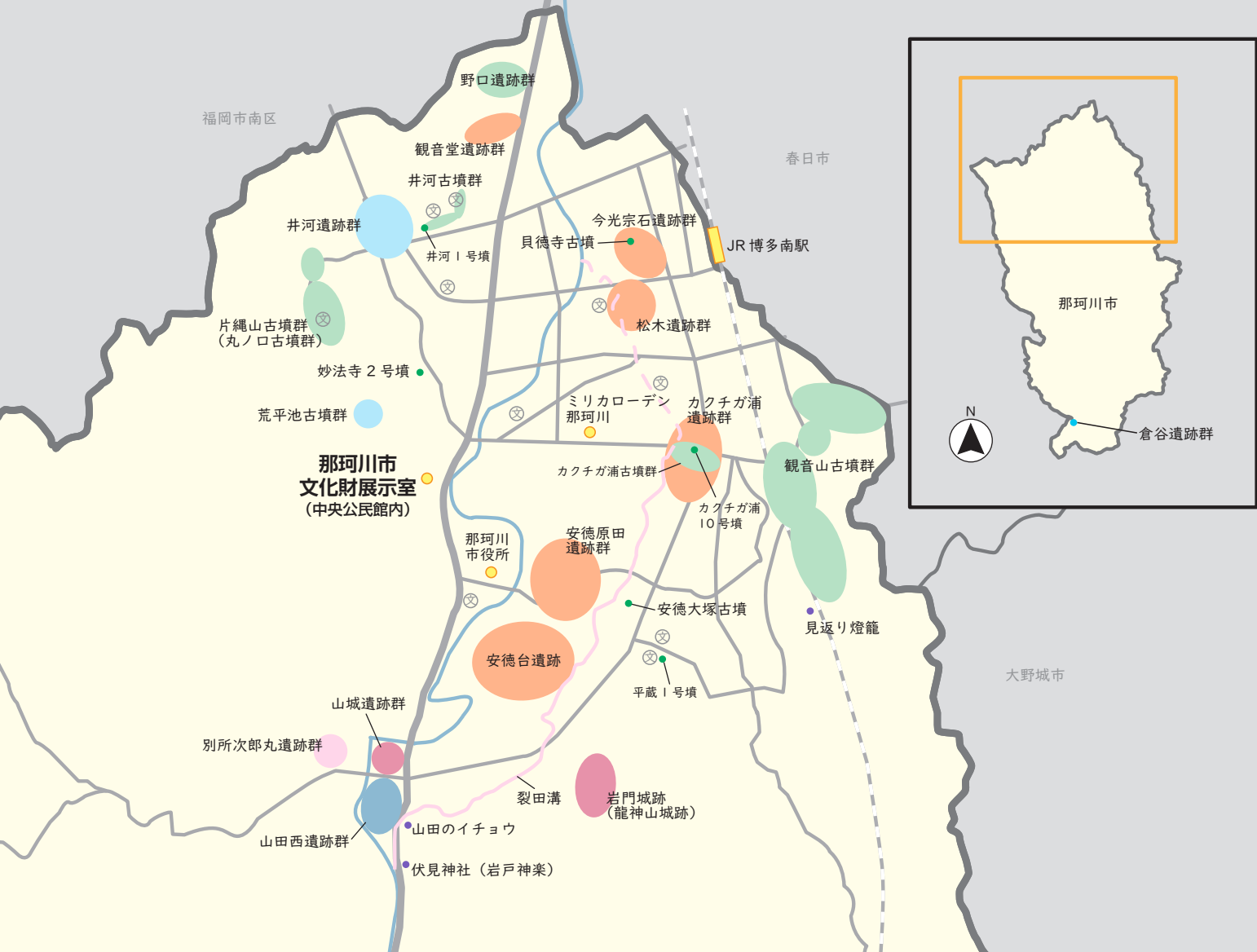
▲コースター  
(市制施行グッズ) 9 cm×9 cm

おわりに

那珂川市には、展示室だけでは紹介しきれないほど多くの文化財があります。本冊子で紹介しているのは、その貴重な文化財のほんの一部です。

皆様にとって展示室やこの冊子などが、那珂川市の歴史や文化に触れるきっかけとなれば幸いです。

これからも、皆様とともに那珂川市の文化財を守り、未来へと伝えていきたいと考えています。

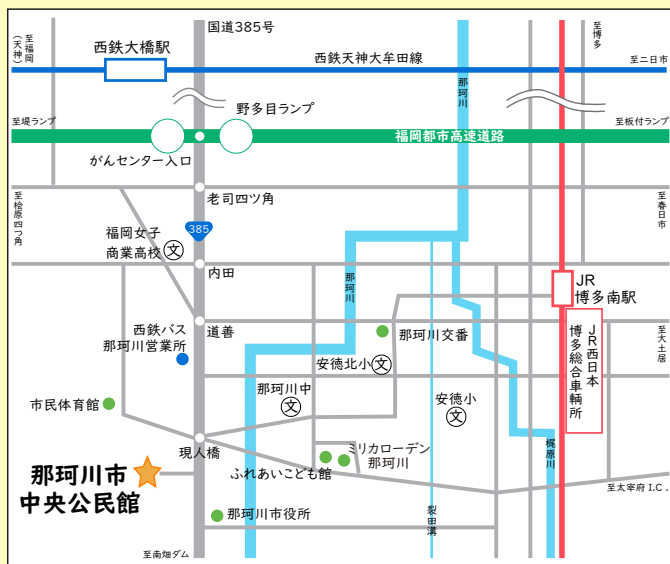


## 今回紹介した 遺跡・文化財

- 旧石器時代の遺物が見つかった遺跡
- 縄文時代の遺跡
- 弥生時代の遺跡
- 古墳時代の遺跡・古墳
- 古代の遺跡
- 中世の遺跡
- 近世・近現代の文化財

※遺跡の色分けは、展示している遺物の主な時代を示しています。

※今回紹介した遺跡は、市内に所在する数多くの遺跡のうちの一部です。



ところ

那珂川市中央公民館 2階

見学できる  
時間

平日 午前 9 時から 午後 5 時まで

※土日祝日及び中央公民館閉館日は  
見学できません(2026年3月現在)

費用

入場無料

お問い合わせ先：那珂川市教育委員会文化財課 tel.092-952-2092  
〒811-1241 那珂川市後野1丁目5番1号  
平日午前9時から午後5時まで